

## 第27期考古学セミナー（2025年度）

—日向洞窟遺跡西地区と縄文時代草創期の置賜—

### 第3回講座

講義⑤

日向洞窟遺跡総括報告書の刊行に向けて

高畠町教育委員会

水口 哲 氏

令和7年10月5日（日）

会場 山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館研修室



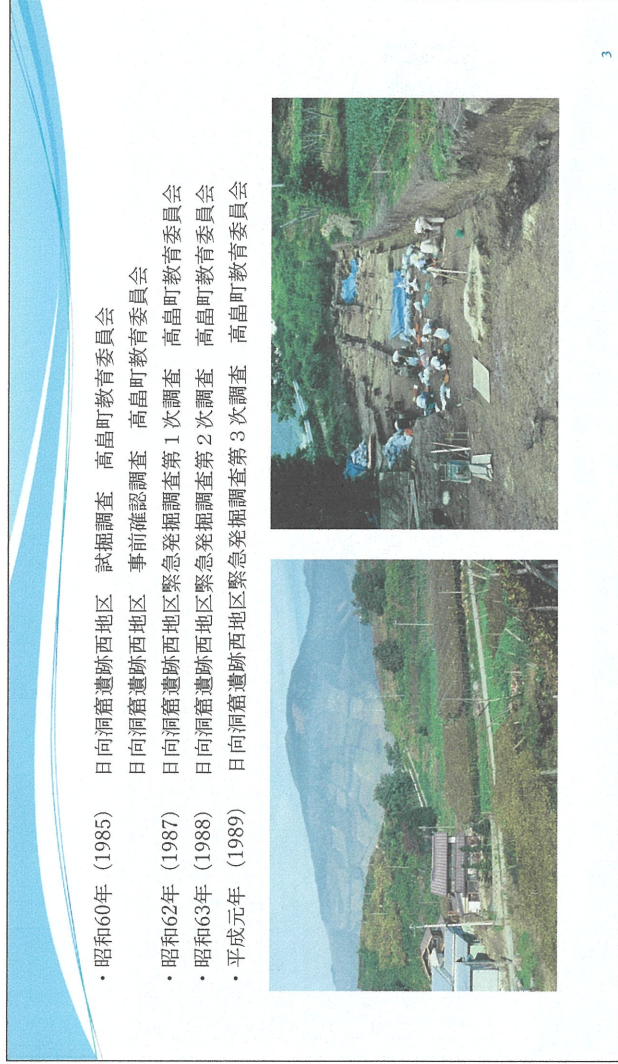


# 日向洞窟遺跡総括報告書刊行に向けて

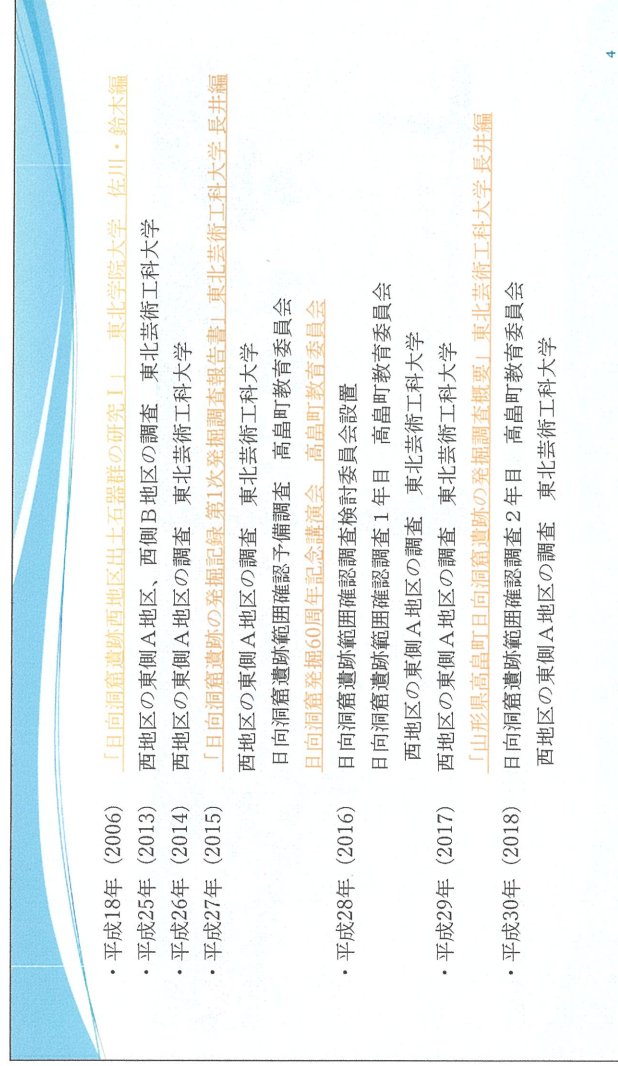
高島町教育委員会 社会教育課 水口 哲 監

## 日向洞窟遺跡関連発掘調査年表

- ・昭和30年 (1955) 日向洞窟第1次調査 山形大学・高島町教育委員会・高島町文化財保護会  
山形大学 柏倉亮吉氏の指導で実施
- ・昭和32年 (1957) 日向洞窟第2次調査 山形大学他
- ・昭和33年 (1958) 日向洞窟第3次調査 山形大学・東京大学
- ・昭和45年 (1970) 日向洞窟第4次調査 高島町教育委員会



- ・昭和60年 (1985) 日向洞窟遺跡西地区 試掘調査 高島町教育委員会
- 日向洞窟遺跡西地区 事前確認調査 高島町教育委員会
- ・昭和62年 (1987) 日向洞窟遺跡西地区緊急発掘調査第1次調査 高島町教育委員会
- ・昭和63年 (1988) 日向洞窟遺跡西地区緊急発掘調査第2次調査 高島町教育委員会
- ・平成元年 (1989) 日向洞窟遺跡西地区緊急発掘調査第3次調査 高島町教育委員会



- ・平成18年 (2006) 「日向洞窟遺跡西地区出土石器群の研究」 東北学院大学 佐川・鈴木編
- ・平成25年 (2013) 西地区の東側A地区、西側B地区の調査 東北芸術工科大学
- ・平成26年 (2014) 西地区の東側A地区の調査 東北芸術工科大学
- ・平成27年 (2015) 「日向洞窟遺跡の発掘記録 第1次発掘調査報告書」 東北芸術工科大学 長井編

- 西地区の東側A地区の調査 東北芸術工科大学
- 日向洞窟遺跡範囲確認予備調査 高島町教育委員会
- 日向洞窟発掘60周年記念講演会 高島町教育委員会

- ・平成28年 (2016) 日向洞窟遺跡範囲確認調査検討委員会設置
- 日向洞窟遺跡範囲確認調査1年目 高島町教育委員会
- 西地区の東側A地区の調査 東北芸術工科大学
- 西地区の東側A地区の調査 東北芸術工科大学

- ・平成30年 (2018) 「山形県高島町日向洞窟遺跡の発掘調査概要」 東北芸術工科大学 長井編
- 日向洞窟遺跡範囲確認調査2年目 高島町教育委員会
- 西地区の東側A地区の調査 東北芸術工科大学



国指定史跡「日向洞窟」発掘60周年記念講演会  
平成27年(2015年)



日向洞窟発掘60周年記念講演会

- ・令和元年 (2019) 日向洞窟遺跡範囲確認調査 3 年目 高島町教育委員会
- ・令和 2 年 (2020) 「日向洞窟遺跡―縄文時代草創期から早期の調査」東北芸術工科大学 長井編
- ・令和 3 年 (2021) 日向洞窟遺跡範囲確認調査 4 年目 高島町教育委員会  
西地区の東側 A 地区の調査 愛知学院大学  
範囲確認調査検討委員会を改編し、日向洞窟遺跡調査検討委員会を設置
- ・令和 6 年 (2024) 「日向洞窟遺跡範囲確認調査報告書」高島町教育委員会  
「日向洞窟遺跡西地区発掘調査報告書」刊行 高島町教育委員会  
日向洞窟遺跡総括報告書作成に向けた国庫補助事業 1 年目  
日向洞窟遺跡総括報告書作成に向けた国庫補助事業 2 年目  
日向洞窟遺跡総括報告書作成に向けた国庫補助事業 3 年目  
日向洞窟遺跡総括報告書作成に向けた国庫補助事業 4 年目  
日向洞窟遺跡総括報告書作成に向けた国庫補助事業 4 年目  
総括報告書刊行 (予定) 高島町教育委員会

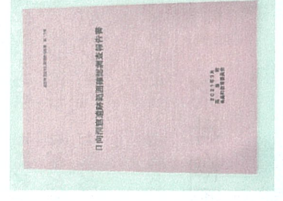
国指定史跡「日向洞窟」発掘60周年記念講演会  
平成27年(2015年)



日向洞窟発掘60周年記念講演会



たかはた文化財会報 50年のあゆみ





## 第1次調査 昭和30年(1955) 10月20日～10月26日 7日間

- ・調査主体：高畠町教育委員会、山形大学教育学部歴史研究部、高畠町文化財保護会 →調査が契機となり会が発足(昭和30年9月9日)
- ・調査指導：山形大学教授 柏倉亮吉氏
- ・調査内容：高畠町文化財保護会会報第七號より  
日向「立石洞窟」遺蹟

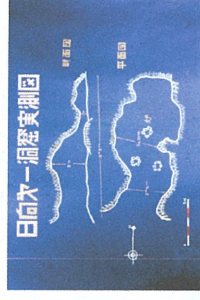
高畠町屋代地区日向郡落の花立坂の東部にある。昭和30年7月8日県専門委員の山本柏倉教授の調査により、早期の土器(約7千年前)の破片1個を発見し、且つ獣骨貝殻の出土品と、付近一帯より各種の石器類が拾集される処から、古代人の住居に使用された「洞窟遺蹟」で全国でも珍しく重要文化財として最も価値あるものであるとのご意見により既に洞窟内に土砂が流入堆積していたので、これを発掘すべく高畠町文化財保護会が中心となり、地元部落並に区有力者の協力により、町教育委員会として昭和30年10月20日から26日まで1週間、柏倉教授指導のもとに洞窟の発掘作業を行った。

9

## 第1次調査 昭和30年(1955)

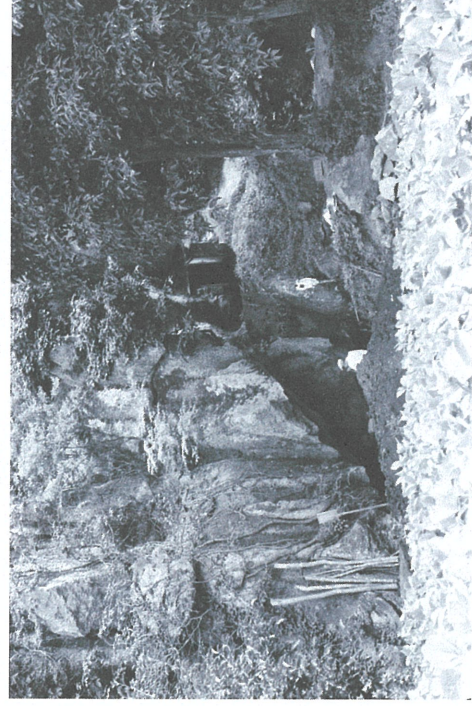
その結果次の如き各種の出土品が発掘され「石器時代洞窟遺蹟」として確認されるに至った。

1. 縄文式土器 早期、中期、後期、続縄文式文化
2. 石器 打製石器が非常に多い。石斧、石匙、石皿、石鏃、等多数あり。磨製石器も石斧を始め各種の石器が出土した。発掘後日石器に類した釣り針の獣骨が1個発見された。
3. その他
  - (1) 洞窟内に転び石を円形に並べた炉の跡が四力所あり住居跡と確認された。
  - (2) 古代人の人骨(大腿骨、頭蓋骨、)大腿骨は専門家の調査では古代人のものと確認された。
  - (3) 獣骨(鹿、猪、等)貝殻(鳥貝その他)等多数。



10

## 第1次調査 昭和30年(1955)



第1洞窟調査風景 1次調査または2次調査

11

## 第2次調査 昭和32年(1957) 8月1日～8月2日 2日間

- ・調査主体：町教育委員会、高畠町文化財保護会、山形新聞社の共催  
高畠町文化財保護会調査団 団長 山形大学 柏倉亮吉氏
- ・調査指導：山形大学教授 柏倉亮吉氏、早稲田大学大学院講師 直良信夫氏
- ・調査内容：高畠町文化財保護会会報第11號より  
二井宿観音岩、尼子、屋代日向洞窟発掘遺蹟学術調査

本会と町教委及び山形新聞社の共催で、山本教授柏倉亮吉氏を団長とする「高畠町文化財保護会調査団」二十名が来町され、会員協力のもとに7月29日から31日まで3日間二井宿観音岩と尼子洞窟を発掘、次いで8月1日と2日の両日は屋代日向洞窟を発掘、各々縄文土器、獣骨類、貝類等の出土品と共に尼子と日向洞窟からは約一万年以上という無土器文化期の出土品ポイント(月桂樹葉形石鏃尖頭器)フレイド(長方形様の刃器)等が発見され、兼ねて県の文化の発祥地とされていたが、わが高畠地方はいよいよもってその裏付けがもたらされた次第で、**山新紙上にも「山形県の高天ヶ原」**と折紙を付けて大々的に報道された。

12



## 第2次調査 昭和32年(1957)



13

## 第3次調査 昭和33年(1958)

その間本会員も多数参加して作業を援助、又日向部落は多数の調査団の分宿を担当し、最終日の七日には部落公民館で発掘調査の結果報告の座談会を開催し、次のような数々の成果を挙げた。

一、山大班は掘り始めて間もなく黒い腐植土の下から弥生式土器の遺品群、さらにその下の第二層からは縄文晩期のもものとみられる炉跡二つを発見、同地帯の地層と遺品分布状態が予期以上に整然とされていることをつきとめた。

二、東大班は表層土のすぐ下から縄文前期のものらしい繊維入りの土器片を掘り出し、それより下深く1メートルほどのところからは土器を伴わない未完成の土器と石杵や石斧などの磨製石器十数点を発掘した。土器をともなわない石器地層のあることは石器時代からの住居跡を示すわけである。なおここでは綺麗な地層変化が見られ、深さ1メートル10センチまでに年代順の遺物がなれば、原住民が生活していた地盤の層も確かめられた。そしてここからは原石に近い縄文早期の磨石器や自然石板にわずかな加工を加えた打製石器を得た。

15

## 第3次調査 昭和33年(1958) 8月1日～8月7日 7日間

- ・調査主体：町教育委員会、高島町文化財保護会、山形新聞社の共催
- ・調査指導：東京大学 東京大学 山内清男氏、鈴木尚氏  
山形大学 山形大学 柏倉亮吉氏、東根高校 加藤稔氏
- ・調査内容：17名の山大班は第一洞窟と洞窟前のトレンチ  
7名の東大班は第四岩陰を調査

高島町文化財保護会会報第16号より

第三次日向洞窟発掘学術調査

本会と町教委及び山形新聞社の共催で、東京大岳人類学教室鈴木尚博士並に山内講師を主幹とした七名の東大班と山形大学柏倉教授並に東根高校加藤教諭を主幹とした十七名の山大班との二調査団により、山大班は第一洞窟と洞窟前のトレンチを掘り、東大班は新たな第四洞窟（第四岩陰）を各々担任して八月一日から七日間発掘調査が行われた。

14

## 第3次調査 昭和33年(1958)

三、第四洞窟前面の土層は土から黒褐色の表層土、凝灰岩質角礫をふくむ褐色層、チヨコレート色の層でここまでは遺物層、一番下の層が第三層と不整合でこの黄白色粘土層が堆積したあとと第三層が堆積するまで長い時間の間隔があった。

四、第一洞窟前面もほぼ四層に分けられるが、遺物出土層は表土層と第三層でその間には角礫やレンズ上の砂層をふくむ黄褐色の第二層が介在している。このことはかつて一たん地形面上の堆積作用が中断した時期があった先住民族の生活舞台となったあとと、激しい埋積作用の時期が訪れ、以後また生活の場となって今日にいたったとみることが出来る。

五、第一洞窟の出土品は石杵30、ヤジリ20、石ナイフ、石錐、石斧、三角柱などのほか土器片2千個に達した。土器で特に注目されるのは東北で一番古いものに属する細隆起線紋や線状土器などで、石器のうち県内に原始器のない黒曜石のヤジリ、蛇紋岩の石斧があったことは原住民の行動範囲が意外に広がったことを物語り又石ヤリを鋭くして錐にしたものや三角柱なども混ざっている。いずれにせよ石ヤリ（ポイント）を非常に多く伴っていたことから無土器文化と縄文文化の関連について一つのヒントを与える。

16



### 第3次調査 昭和33年(1958)

六、第四洞窟からは期待した人骨が得られなかったが、縄文早期の無紋土器をはじめ非常にそろった遺物を得た。即ち地表の黒い土の中からは縄文前期の土器、その下の地表からは表裏に貝がらによるギザギザ模様をいれた早期終わりの茅山式土器、その下からは田戸下層式と云った具合に極めて奇麗に出て来て、この出方はこれまでの学説をハッキリ裏付けるものとして貴重なものである。

七、再三にわたる日向洞窟の出土品には早期(約七千年前)、前期、中期、後期、晩期の各時代のものがあり、さらに弥生、須恵(約二千年前)も少量ながらある。

一方石器についてはいわゆる無土器文化の要素を強くもつものが下層から何種類かみつき、無土器と縄文文化のつながりがある程度明らかにされた。

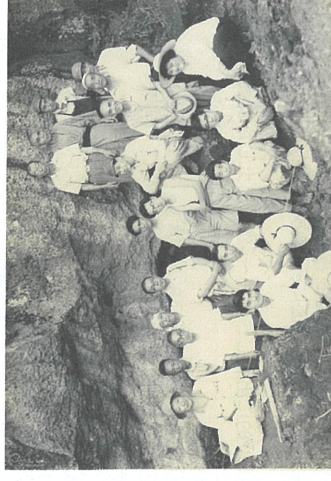
この一週間にわたる収穫は考古学のみならず、非常に幅の広い深いものとなり、いずれにせよ今回の調査はこれまで出たものに体系をつける意味でも非常にあざかるところが大きかったのである。

17

### 第3次調査 昭和33年(1958)



第I洞窟前記念写真



第IV岩陰調査時の記念写真

18

### 第3次調査 昭和33年(1958)

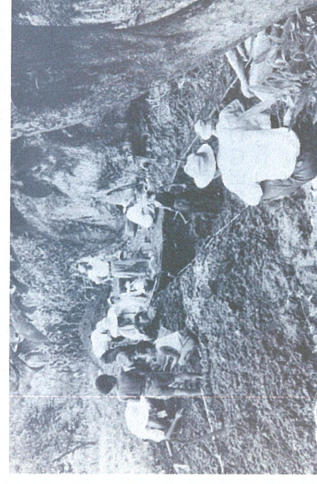


第I洞窟前トレンチ



19

### 第3次調査 昭和33年(1958)



第IV岩陰前調査風景

20



### 第3次調査 昭和33年(1958)



公民館で発掘調査の結果報告の座談会後の様子か

21

### 高畠町文化財保護会創刊號より

立石洞窟発掘調査費について 昨秋立石洞窟発掘については町教育委員会始め、町長その他多数、名士並びに会員諸氏のご援助、ご後援を得、特に調査費として多額の御寄付を頂き、おかげをもって・・・とあります。収支報告によると、収入合計31,700円の内、10,000円が町教育委員会助成金、残りの21,700円は篤志寄付金となっています。ちなみに支出金は10,243円が発掘人夫料、他調査費、研究費、雑費となっています。

### 高畠町文化財保護会會報第21號より

#### ◎日向洞窟出土品の光栄

来る五月十日、両陛下が植樹祭に御来県になりますが御泊所上山市村尾旅館に於て日向洞窟出土の鳥骨、貝殻類をご覧に入れる事になり、山犬教授柏倉教授がその準備中との報告がありました。本会がもたらした出土品が両陛下の御覧に供せられる事は本会の誠に光栄とする処です。

22

### 第4次調査 昭和45年(1970) 11月14日～11月25日 12日間

- ・調査主体：高畠町教育委員会（山形県立博物館 佐々木洋治氏）
- ・調査指導：佐藤達夫氏、川崎義雄氏、岡本東三氏
- ・調査内容：第1洞窟前のテラスの調査  
山形県立博物館研究報告第1号 山形県における縄文草創期文化の研究 I 佐々木洋治氏より  
日向洞窟遺跡群

高畠町大字竹森字姥ヶ作 標高240m 高畠町の北方、日向部落より東北へ約0.6km通称「立石」と呼称されている凝灰岩が樹立している中に4箇所の洞穴・岩陰遺跡がある。夫々出土遺物の豊富な第1洞穴を基準に東へ第2、第3、西に第4岩陰の遺跡がほぼ南面に洞入口を開く。現在に至るまで4次にわたる調査が行われた。

第4次調査 1970年11月14日～25日 日向洞穴、岩陰に比して圧倒的に多量の遺物を出土しており、草創期に属する資料はすべて第1洞穴である。

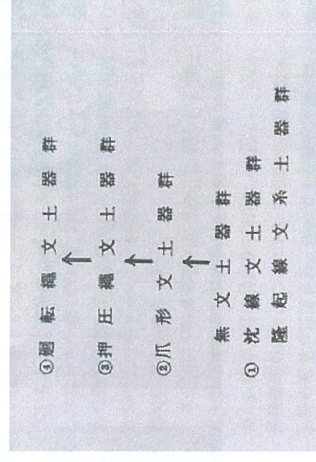
日向第1洞穴 洞穴入口はほぼ真南に開口し、調査前の計測においては入り口の高さ1.5m、幅4m、奥行9.5、入口断面は不等辺の三角形形状を呈し、内部は台形状で、奥にしたがい天井も低く、幅も狭くなっている。

23

### 第4次調査 昭和45年(1970)

層序は第1～3次の洞穴を中心とする調査において、層位と出土遺物との関係は次の如くである。この時点では第4層中に縄文時代草創期に属する数型式のどきが含入し正確な層位関係は確認されていないが、1970年第4次の調査において洞穴入口テラス部の地区に8層11枚の層位の確認に成功した。

その結果量的には少ないが夫々各型式の土器片が層位的に出土し、第1～3次に出土した多量の遺物の編年の位置が判明した。



24

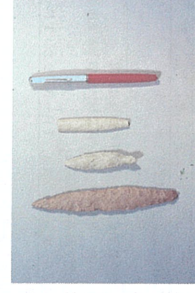
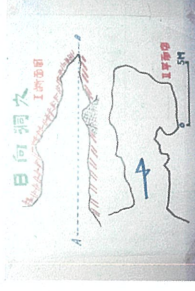


## 第4次調査 昭和45年(1970)



25

## 第4次調査 昭和45年(1970)



26

## 第4次調査 昭和45年(1970)

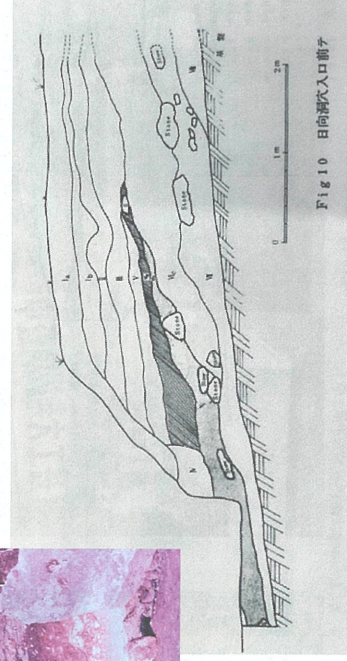


Fig 10 日向洞入口前テ

佐々木洋治：山形県における縄文草創期文化の研究 I

27

## 西地区東側A地区、西側B地区の調査 平成25年(2013)～令和2年(2020)

- ・調査主体：東北芸術工科大学 平成25年(2013)～令和2年(2020)  
愛知学院大学 令和2年(2020)
- ・調査担当：東北芸術工科大学 長井謙治氏  
愛知学院大学 長井謙治氏

・調査内容：町道竹森時沢線東側に隣接するA地区、及び旧道よりさらに西側のB地区の2地点について遺跡の広がりや遺物の堆積状況の確認を目的とした調査を実施。

A地区に設けた3箇所のテストピットからは、竪穴状遺構や土坑、ピットなどが検出され、平成26年度、27年度の調査だけでも土器906点、石器17,304点が報告されている。

「日向洞窟遺跡－縄文時代草創期から早期の調査」東北芸術工科大学 長井編より

28



## 西地区東側A地区、西側B地区の調査 平成25年(2013)～令和2年(2020)



29

## 日向洞窟遺跡範囲確認調査 平成27年(2015)～令和2年(2020)

- 調査主体：高島町教育委員会
- 調査担当：高島町教育委員会 井田秀和 平成27年(2015)～平成28年(2016)  
高島町教育委員会 水口哲 平成30年(2018)  
高島町教育委員会 水口哲、鈴木大輔 令和元年(2019)～令和2年(2020)

調査内容：日向洞窟は、高島町北部の湿地帯の東端縁辺の丘陵に位置する。4箇所の洞窟・岩陰を中心とした縄文時代草創期の遺跡が、昭和52年に国史跡として指定された。その後の洞窟群西側地区の調査によって、日向洞窟の遺跡範囲が国指定範囲の外側に広がる可能性が高いことが指摘されたことから、日向洞窟の遺跡範囲を確認し、指定範囲の拡大を目指すために実施した範囲確認調査である。

調査の結果、埋蔵文化財包蔵地としての日向洞窟の遺跡範囲は従来よりも南側に広がるということが確認された。また、国指定範囲の根拠ともなる縄文時代草創期の包含層は、今回の調査では確認出来なかったものの、縄文時代草創期の分布範囲は現状の指定範囲より西側に広がるということが確認できた。

30

## 日向洞窟遺跡範囲確認調査 平成27年(2015)～令和2年(2020)

- 平成27年度に予備調査を実施、平成28年度から令和2年度にかけて、国庫補助事業による範囲確認調査を実施した。
- 平成28年度は国指定史跡「日向洞窟」指定範囲の東側範囲の確認を目的として、第三岩陰南東部に調査区を設定。また、航空レーザー計測による洞窟及び周辺地区の測量を実施。
- 平成29年度の事業休止を挟み、平成30年度は、指定範囲南側範囲の確認を目的として調査を実施。指定範囲南側の西寄りの地点を調査地1、中間部を調査地2、東寄りの調査地3の離れた3地点について、調査を行った。
- 令和元年度は指定範囲西側範囲の確認を目的として、町道竹森時沢線の西側地区の調査を行った。現在では町道竹森時沢線で隔てられているもの、かつては洞窟本体部分と一つの丘陵を形成していたことから調査区を設定し、確認を行った。
- 最終年度となる令和2年度は、指定範囲北側の範囲を確認するために、第一洞窟直上の北側斜面について調査を実施した。
- 各年度とも、1点目は国指定の範囲の根拠となる縄文時代草創期の包含層の有無と遺存状態について、2点目は埋蔵文化財包蔵地としての日向洞窟の遺跡範囲の確認のため、の2点をあてて調査を行った。

31

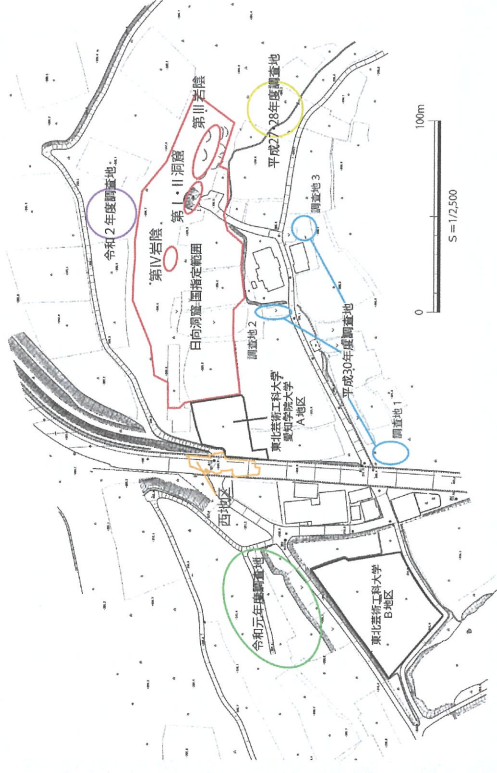
## 日向洞窟遺跡範囲確認調査 平成27年(2015)～令和2年(2020)

| 年度     | 調査内容                                                                                                                             |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 平成27年度 | ・日向洞窟遺跡範囲確認予備調査<br>第三岩陰東側地区の調査 TP-A                                                                                              |
| 平成28年度 | ・日向洞窟遺跡範囲確認調査検討委員会設置<br>・国指定史跡「日向洞窟」及び周辺地区地形測量業務委託<br>・日向洞窟遺跡範囲確認調査                                                              |
| 平成29年度 | 第三岩陰東側地区の調査 TP-B・B2、TP-C、TP-D<br>事業休止                                                                                            |
| 平成30年度 | ・範囲確認調査検討委員会の実施<br>・範囲確認調査検討委員会の実施<br>・日向洞窟遺跡範囲確認調査                                                                              |
| 令和元年度  | 指定範囲南側地区の調査 TP-E (調査地1)<br>TP-F、TP-H (調査地2)<br>TP-G (調査地3)<br>・範囲確認調査検討委員会の実施<br>・日向洞窟遺跡範囲確認調査<br>町道西側地区の調査 TP-I<br>TP-J<br>TP-K |
| 令和2年度  | ・範囲確認調査検討委員会の実施<br>・日向洞窟遺跡範囲確認調査 (補充調査) TP-L、TP-M<br>・報告書作成、年度末刊行                                                                |

32



## 日向洞窟遺跡範囲確認調査 平成27年(2015)～令和2年(2020)



33

## 日向洞窟遺跡範囲確認調査

平成27年(2015)～令和2年(2020)



上空から日向洞窟を望む (奥) 日向洞窟西地区 (手前)

大谷地全景

南陽市白鷺湖方面を望む I

34

## 日向洞窟遺跡範囲確認調査 平成27年(2015)～令和2年(2020)



TP-F 調査区近景

TP-F 掘り下げ状況

TP-A 調査区遠景

TP-H掘り下げ状況

35

## 日向洞窟遺跡範囲確認調査

平成27年(2015)～令和2年(2020)



TP-E 調査区遠景



TP-E 遺物出土状況



TP-E 出土器



TP-K 調査区近景



TP-K 掘り下げ状況 I

36





TP-1 土層断面



TP-I 遺物出土状況



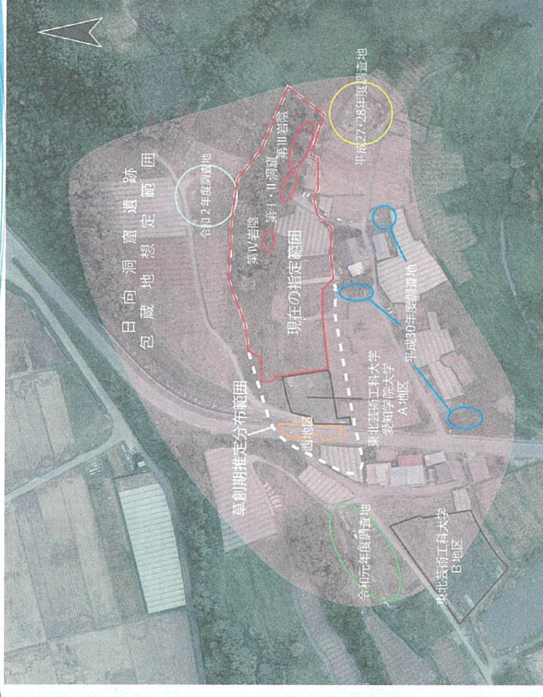
TP-I 遺物出土状況



TP-L 調査区近景



TP-L 土層断面



274

①昭和30年代、40年代の日向洞窟第1次発掘調査から第4次発掘調査、昭和から平成にかけての日向洞窟遺跡西地区発掘調査、平成から令和にかけての東北芸術工科大学、愛知学院大学の学術調査、高島町教育委員会による範囲確認調査のすべてをまとめた日向洞窟遺跡総括報告書を作成します。

②第1次調査から第4次調査にかけての出土遺物は、大部分が山形大学から移管を受けて町に保管されています。ただし、県史編纂や町史編纂時に移管されているものなど、比較的良好な資料を中心に、現在所在が判明していない資料も多くあります。

引き続き、資料の収集につとめ、総括報告書の刊行に向けて作業を進めていきます。関係の皆様のご指導、ご協力をよろしくお願いいたします。

